別記様式第8号（別記1の第6の1関係）

鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告（平成25年度報告）

青　森　県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

被害防止計画14件（うち事業実施分は7件）

ニホンザルに対しては、生息頭数調査や箱わなによる捕獲などの「個体数調整」、指導員の育成及びモンキードックや発信器を利用した見回りによる追い払い実施等の「被害防除」、緩衝帯の設置や放任園除去等による「生息環境整備」を組み合わせ効果的な取組を実施し、さらに農作物被害が大きい市町村では電気柵を設置している。また、下北地域でニホンザルの生息域を包囲して効率的に対策を行うために4市町村の広域連携による対策を実施しており、その他の地域ではそれぞれの市町村が単独で取り組んでいる状況である。

その他、ツキノワグマ、カラス、ノウサギ、カルガモ、アライグマ、その他カモ類に対しては、箱わな及び銃器による捕獲や追払い活動などを組合わせて実施した。

2　事業効果の発現状況

ニホンザルについては、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、下北（広域）において、テレメトリ発信器を活用したニホンザルの行動調査を実施しており、箱わな等の捕獲機材の導入と併せて効率的な捕獲が実施できた。また、五所川原市、外ヶ浜町では、銃器等による捕獲や追払いを実施し、被害軽減につながった。特に被害が多い弘前市や外ヶ浜町では、電気柵を設置を行った結果、設置場所では被害がほとんど無くなるなど電気柵による被害防止効果が高かったほか、鰺ヶ沢町、下北半島では、モンキードックを活用しており、ニホンザルの追い払い効果は高かった。

これらの結果、市町村において、ニホンザルの個体数調整が図られたことから、農作物の被害金額及び被害面積とも前年に比較して減少した。さらに、市町村では、研修会等の開催や参加による鳥獣被害防止対策に関する知識や技術の向上も図られているほか、有害鳥獣捕獲従事者や実施隊員等の確保も行われており、鳥獣の捕獲体制の強化が進んだ。

その他、ツキノワグマ、カラス、ノウサギ、カルガモ、アライグマ、カモ類についても、箱わな及び銃器による捕獲や追払い活動などを行った結果、農作物の被害額及び被害面積とも減少傾向となっているものの、アライグマに関しては、箱わなによる捕獲活動を行っているものの、弘前市や鰺ヶ沢町などで、すいかやりんごを中心に被害が拡大しており、今後、捕獲活動の一層の強化が必要である。

3　被害防止計画の目標達成状況

外ヶ浜町	ニホンザルによる被害は、電気柵の設置等により設置ほ場の被害が無くなったものの、他地域で被害が発生したことから被害面積は目標を達成したが、被害金額は目標を達成出来なかった。
弘前市	ニホンザルについては、銃器や箱わなによる捕獲や、電気柵の設置効果が高かったため被害金額は目標を達成したが、被害地域は拡大していることから、被害面積は目標を大きく上回った。また、アライグマの農作物被害が急激に伸びており、被害金額及び被害面積とも目標を達成できなかった。これらの結果、市全体では、被害防止対策が進んだことにより被害金額は目標を達成したものの、鳥獣による被害地域が拡大していることから被害面積は目標を達成できなかった。
五所川原市	ニホンザル、カラス、カルガモ、カモ類等について、銃器による捕獲や追い払いを実施した結果、被害金額及び被害面積（被害量）ともに目標を達成した。
鰺ヶ沢町	ニホンザルに対して、モンキードックによる追い払いや箱わなによる捕獲活動を行ったものの、被害地域の拡大等により被害金額は目標を達成できなかった。また、カラスの被害額も増加しており、目標を達成できなかったことから、町全体では、被害面積は目標を達成できたものの、被害金額は目標を達成できていない。
深浦町	ニホンザルに対して、箱わなによる捕獲や緩衝帯の設置、追い払いにより、被害面積は目標を達成したが、大規模農場で被害が拡大したことにより、被害金額は目標を達成出来なかった。また、ツキノワグマについては被害金額や被害面積ともに目標を達成した。これらの結果、町全体では、被害防止対策が進んだことにより、被害面積は目標を達成したが、被害金額は目標を達成できなかった。
下北（広域）	ニホンザルに対して、箱わなによる捕獲、モンキードッグによる追い払い、緩衝帯の設置により被害面積は目標を達成したが、生息域や生息頭数が多いため、被害金額は目標を達成出来なかった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
外ヶ浜町鳥獣被害防止対策協議会	外ヶ浜町	H23～H25年度	ニホンザル	・電気柵設置 ・花火の導入 ・発信器の購入と装着 ・銃器等による追払い ・生息域等調査	・150m（H23実証試験）、200m（H24） ・8連480発 ロケット1,200発（H23） ・発信器5基（H23）、3基（H24）、7基（H25） ・追払い人数38人（H24）、45人（H25） ・生息域等調査 町内全域(H23,H25)	外ヶ浜町鳥獣被害防止対策協議会	H24.10～	100%	花火等による追払いは効果があるが、慣れることにより、追い払い効果は薄くなる傾向にある。 また、電気柵の設置は、被害の防止に顕著な効果が見られ、設置した農地へのニホンザルの侵入は激減したものの、未設置の地区での被害が増加する傾向にある。 その他、銃器等による追い払い、調整に関しては、確実に効果があることが確認されたものの、出没地域や時間を正確に把握する必要があり、生息数や行動域の調査を実施したが、調査回数が少ないため、今後更に情報を収集して調査報告を基に効率的に活動できるように努める。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 19.74万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 24.39万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 45%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 0.74ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 0.47ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 184%	電気柵を整備した平舘地区(ブルーベリー)、三厩地区(ばれいしょ等)では、ニホンザルの被害は激減したものの、個体数が増加していることから、電気柵の未整備地区(農地)では農作物被害が増加傾向にある。 また、花火による追い払いは馴れがあることや、銃器や箱わな等による捕獲は、出没地域の把握が困難な面があるため、今後は電気柵の設置、地域ぐるみでの情報把握や連携した追い払いなどの活動が必要である。	ニホンザルの行動を把握しながら捕獲活動や追払い活動を実施した結果、被害金額、被害面積ともに減少し、被害面積は目標値を達成した。 サルを寄せ付けない集落環境づくりを図りながら、今後とも継続的な取組が必要である。

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
弘前市鳥獣被害防止対策協議会	弘前市	H23～25年度	ニホンザル、ツキノワグマ、カラス、カルガモ、ノウサギ、アライグマ	・電気柵の導入 ・サル、ｱﾗｲｸﾞﾏ講演会開催 ・箱わなの導入 ・侵入防止資材の導入 ・追払い機材の導入	・1800m（H23）、3130m（H24）、3075m（H25） ・サル講演会（H23）、ｱﾗｲｸﾞﾏ講演会（H24.H25） ・箱わなｸﾏ用２基 ｱﾗｲｸﾞﾏ用10基（H23）、サル用１基、ｸﾏ用2基、ｱﾗｲｸﾞﾏ用40基（H24）、ｱﾗｲｸﾞﾏ用40基（H25） ・有刺鉄板10枚、ネット２枚（H24） ・投光器１基、ﾊﾞﾘｱﾄｰﾝ1基（H24）	弘前市鳥獣被害防止対策協議会	H23.9～ H24.9～ H25.9～	100%	猿害防止用電気柵の効果は大きく、設置した圃場では被害が大きく減少した。 その他対策物品（バリアトーン）は一部効果は認められたものの、設置していても被害にあった場所もあるため、効果を今後も検証する必要がある。 銃器・箱わなによる捕獲も継続して実施している。 鳥獣対策用ネットは、園地の一部に使用したところ被害は防げたが、園地全域に設置すると莫大な費用がかかるため、さらに低いコストでできる防除対策を考えていく必要がある。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 950万円 ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 785万円 ｶﾗｽ 750万円 ｶﾙｶﾞﾓ 20万円 ﾉｳｻｷﾞ 980万円 ｱﾗｲｸﾞﾏ 40.9万円 合計 3525.9万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 835.5万円 ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 782.1万円 ｶﾗｽ 496.2万円 ｶﾙｶﾞﾓ 64.8万円 ﾉｳｻｷﾞ 128.6万円 ｱﾗｲｸﾞﾏ 161万円 2468.2万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 148% ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 101% ｶﾗｽ 233% ｶﾙｶﾞﾓ −919% ﾉｳｻｷﾞ 448% ｱﾗｲｸﾞﾏ −393% 221%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 2.9ha ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 2.4ha ｶﾗｽ 2.4ha ｶﾙｶﾞﾓ 1.0ha ﾉｳｻｷﾞ 3.0ha ｱﾗｲｸﾞﾏ 0.2ha 11.9ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 5.63ha ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 2.4ha ｶﾗｽ 3.9ha ｶﾙｶﾞﾓ 2.85ha ﾉｳｻｷﾞ 1.91ha ｱﾗｲｸﾞﾏ 0.65ha 17.34ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ −290% ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 102% ｶﾗｽ −150% ｶﾙｶﾞﾓ −825% ﾉｳｻｷﾞ 256% ｱﾗｲｸﾞﾏ −352% −94.30%	ニホンザルの群れの分散化が見られ、出没エリアが広がったことから被害面積の増加に結び付いたものと思われる。 ニホンザルをはじめ、カラス等も個体数が増加しており、被害の増加が懸念されるため、電気柵や樹園地へのテグスや捕獲駆除等の対策が必要である。 また、アライグマの被害が増加傾向にあるため、今後さらに箱わなを導入し、捕獲数を増やす必要がある。 アライグマは、予想以上に繁殖力が高く、個体数が増加しており、被害額が多いかった。 鳥獣被害対策を地域ぐるみで実施する体制づくりを行ってきたことによって、追い払い等の効果も上がっているため、今後も継続して体制づくりを進めたい。	ニホンザルについては、銃器や箱わなによる捕獲活動や電気柵設置の結果、被害金額は減少したものの、被害面積が増加していることから、群れ数や生息域の把握が必要である。 また、外来生物のアライグマ被害が拡大していることから、今後の取組強化が必要である。
五所川原市鳥獣被害防止対策協議会	五所川原市鳥獣被害防止対策協議会	H23年度	ニホンザル、カラス、カルガモ、その他カモ類	・箱わな設置による捕獲 ・スチール弾による捕獲	・箱わな導入3基（H23） ・スチール弾2,620弾購入（H23）	五所川原市鳥獣被害防止対策協議会			鳥獣被害防止総合対策事業を活用し、箱わな3基（協議会設立時から合計10基）を導入、スチール弾を活用した捕獲によりカラス、カルガモ、その他カモ類の被害が軽減され、ニホンザルの捕獲面で着実に成果を挙げている。 当市で発生する被害の状況、地域の実情・要望に即した、より実効的な鳥獣被害対策を講じることで、被害地域住民、漁家の鳥獣害対策意識が益々高まって来ている。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 66.2万円 カラス 57.4万円 カルガモ 63.7万円 その他カモ類 23,503.2万円 合計 23,690.5万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 18.1万円 カラス 0万円 カルガモ 0万円 その他カモ類 5,658.4万円 合計 5，676.5万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 269% カラス 332% カルガモ 332% その他カモ類 277% 合計 277%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 0.17ha カラス 0.17ha カルガモ 0.45ha その他カモ類 ※カモ類面積単位：t(トン) 168t 合計 0.79ha 168t	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 0.05ha カラス 0ha カルガモ 0ha その他カモ類 ※カモ類面積単位：t(トン) 72t 合計 0.05ha 72t	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 250% カラス 313% カルガモ 325% その他カモ類 233% 合計 306% 233%	本市における対象鳥獣であるニホンザル、カラス、カルガモ、その他カモ類の目標達成状況は、いずれも大幅に目標を上回ったが、被害の発生状況は年々の作柄等にも左右されるため、成果のみを捉えて楽観視はできない。 今後は猟友会等関係機関、生産者、漁家等と更に緊密な連携を図り、被害軽減の備えを強力に推し進めていくものである。	ニホンザルについては、銃器および箱わなによる捕獲活動により、被害金額、被害面積ともに大幅に減少し、目標値を達成した。また、他の獣種についても被害が減少し、目標を達成した。 今後とも継続した取組が必要である。
鰺ヶ沢町鳥獣被害防止対策協議会	鰺ヶ沢町	H23～H25年度	ニホンザル、ツキノワグマ、カラス、カルガモ	・箱わなの導入、設置による捕獲 ・モンキードッグによる追い払い ・花火の導入 ・発信器の導入（サル） ・発信器を使用したﾆﾎﾝｻﾞﾙの追払い講習会 ・追払い機材の導入 ・指導者育成研修会参加 ・放任果樹等除去活動	・箱わな2基（H23）、3基（H25） ・ﾓﾝｷｰﾄﾞｯｸﾞ1頭（H23）、ﾓﾝｷｰﾄﾞｯｸﾞによる追払い活動（H23,H24,H25） ・600本購入 ・発信器2基購入（H23） ・ 5名参加（H24） ・電動ｶﾞﾝ1丁購入（H23） ・研修会参加2回（H23）、1回（H24）、1回（H25） ・2園地（H24）	鰺ヶ沢町鳥獣被害防止対策協議会			ニホンザルは箱わな等により3年間で109頭捕獲駆除することができた。一斉追い払い活動、猟友会による捕獲、モンキードックの活用により被害を軽減することができた。研修会参加により、指導者を2名育成できた。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 292.7万円 ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 9万円 カラス 29万円 カルガモ 15万円 合計 345,7万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 310.6万円 10.8万円 50.2万円 0円 371,7万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 87.5% 56.1% −41.3% 225% 85.1%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 2.13ha ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ 0.05ha カラス 0.25ha カルガモ 0.1ha 合計 2.53ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 1.0ha 0.1ha 0.15ha 0ha 1.25ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 207% 0% 140% 200% 188%	被害金額に関しては目標値は達成できなかったが、被害面積に関しては大幅に下げることが出来た。被害面積が減少したのに被害金額が増加した理由としては、単価が高いねぎやえだまめ等の被害増加や被害金額算定のための単価が平成22年より多くの品目が増加したため。ニホンザルの生息数の増加や出没地域が拡大傾向にあるので、追い払いや捕獲対策を継続して講じる必要がある。 カラスによる被害金額が増加傾向にあるので対策を講じる必要がある。	ニホンザルについては、モンキードッグによる追払い活動と箱わな整備による捕獲活動を実施した結果、被害金額、被害面積とも減少した。 ツキノワグマでは被害金額は減少し、カラスでは被害金額は増加した。 今後とも継続した取組が必要である。

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
深浦町鳥獣被害防止対策協議会	深浦町	H23～H25年度	ニホンザル・クマ	・箱わなの作成、設置による捕獲 ・緩衝帯整備 ・忌避資材による効果検証試験 ・集落環境診断の実施 ・サル生息頭数調査。	・箱わな導入1基（H23）、7基（H24）、5基（H25） ・緩衝帯整備4,000㎡（H23）、750㎡（H24） ・忌避資材有刺鉄板（H24）1か所 ・診断　1集落（H23）、1集落（H24） ・ﾃﾚﾒﾄﾘ装着9頭（H23）、11頭（H24）、8頭（H25）	深浦町鳥獣被害防止対策協議会			箱わな作成、導入により捕獲が進み被害軽減につながった。 集落環境診断の導入や広報活動により、追い上げの際は農業者ばかりでなく、地域住民も含めた集団で行う意識を啓発することができた。 農業者や地域住民と、町、実施隊の連絡体制が確立したため、迅速な対応が出来るようになった。 1つの対策で鳥獣被害を防止するのではなく、地域ぐるみで総合的に対策を行うことが必要であることが住民に理解された。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 440万円 クマ 80万円 全体 520万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 496.3万円 クマ 36.6万円 全体 532.9万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 70.20% クマ 224% 全体 94.20%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 2.5ha クマ 0.5ha 全体 3.0ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 1.77ha クマ 0.27ha 全体 2.04ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 160.80% クマ 176.60% 全体 164%	被害金額に関しては、作物により単収及びkg当たりの単価が変動しているため、目標を達成することはできなかったが、被害面積に関しては、大幅に減少することができた。 ニホンザルの被害が大規模農場で大きかったほか、小規模農家の防除ができていない傾向がみられた。 今後も、野生鳥獣との棲み分けができるよう、地域ぐるみでの防除対策を積極的に取り組む必要がある。	ニホンザルについては、行動を把握しながら、箱わなの整備による捕獲活動や、実施隊員への知識習得を図った結果、被害金額、被害面積ともに減少した。 ツキノワグマについては、被害金額、被害面積ともに減少し、目標値を達成した。 集落ぐるみの追払い活動を強化しながら、今後とも継続した取組が必要である。

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議	むつ市 大間町 風間浦村 佐井村	H23年度～H25年度	ニホンザル	・箱わなの導入、設置による捕獲 ・ニホンザル生息調査 ・モンキードックを活用した追い払い ・緩衝帯整備等	・箱わな6基（H23）、13基（H24）、18基（H25） ・下北全域調査（H23,H24,H25） ・ﾓﾝｷｰﾄﾞｯｸﾞ導入3頭（H23） ・緩衝帯整備140㎡（H23）、250㎡（H24）、957㎡（H25）	下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議			生息状況調査により、行動域内のより多く遊動するコアエリアが明確になり、以前導入した犬を活用した追い払いや捕獲活動による檻の設置場所の選定等に有用され、被害の減少につながった地域があった。緩衝帯整備を実施し、群れによる耕作地への侵入を防ぐことができた箇所があった。	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 300万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 315万円	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 94%	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 4.00ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 3.1ha	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ 121%	目標を概ね達成することができ、被害防止効果が出ていると思われる。捕獲活動により、一部の群れの個体数の増加は抑えられたが、依然として下北全体の頭数は高水準であり、被害の減少につなげるためには追い払い・緩衝帯整備等の実施とともにさらに捕獲圧を強める必要がある。	ニホンザルの行動を詳細に把握しながら、箱わなによる捕獲活動を実施した結果、被害金額、被害面積ともに減少し、概ね目標値を達成した。 被害防止対策の模範となるよう、今後とも継続的な取組が必要である。

5　第三者の意見

【外ヶ浜町鳥獣被害防止対策協議会（鳥獣保護員　記田慶市）】

ニホンザルの農作物への被害等を減少させていくために、電気柵の設置や箱わなによる捕獲が効果的であるが、農家(受益者)の経費負担や費用対効果の面からは銃器等による捕獲が一番効果が高いと考えられる。

【弘前市鳥獣被害防止対策協議会（獣医師及び中南地区鳥獣保護員　三上 幹雄）】

猟友会員が減少傾向にあるため、今後も引き続き担い手の育成を行って欲しい。また、ニホンザルやカラス等対策で行う猟銃による捕獲は民家等の近くでは行えないため、農家にも扱えるより効果的な追い払い物品の試験・導入などに取り組んでほしい。さらに、ニホンザルの生息数や生息域が拡大傾向であるため、電気柵設置を継続することが必要である。また、近年急増しているアライグマに対しても、箱わなの導入など、対策を引き続きお願いしたい。

【五所川原市鳥獣被害防止対策協議会（鳥獣保護員　鳴海清孝（旧五所川原市七和、長橋地区を除く旧五所川原市内一円担当）】

農作物やシジミに被害を為す野生鳥獣の増加は近年に顕著なものがある。モンキードッグによる追い払い等の先進的対策を講じる必要もあるが、先ずは銃器を用いた捕獲が第一と思っている。市の獣害対策は捕獲数量・捕獲期間等は県の有害鳥獣捕獲事務取扱要領に照らし適正である。また、本被害防止計画の全体評価も、実被害を適切に把握し評価しており妥当である。今後も事故等が無いよう、無理のない有害鳥獣捕獲事務に取り組んでもらいたい。

【鰺ヶ沢町鳥獣被害防止対策協議会（西北地区鳥獣保護員　山中　信幸）】

被害防止計画の被害面積は目標を達成し、被害金額は達成できなかったが、被害金額は低減（約8割）しており、取組内容は評価できる。猟友会は会員の減少や仕事等多忙で、毎日継続して捕獲等に携わることは現状では難しい。また、町の重要産業である農業振興のために、行政等に頼らない、住民個々の防止意識を一層高めていく必要がある。

【深浦町鳥獣被害防止対策協議会（下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議　被害対策指導員　山﨑秀春）

鳥獣被害対策実施隊の採用により、ニホンザルの巡視・捕獲体制が整い、テレメトリー発信機を積極的に装着し、いち早く群れを発見し、追い上げ・追い払いができている。また、平成25年には、ニホンザル接近警戒システム(広戸字家野上地内(東野地区)を設置し、地域住民と実施隊でより効果的な追い払いを実施している。ただし、被害が大規模農場に集中していることから、今後の深浦町の農業振興に大きく影響を及ぼす可能性がある。ニホンザルの群れ、個体数については、鳥獣被害対策実施隊が生息調査を実施し、群れ数、個体数が急速に増加していることが確認されており、新たな農作物被害発生と増大が懸念される

【下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議（獣医師　柴田　憲明）】

目標が概ね達成されており、被害防止対策の効果が現れたものと評価される。今後も、関係市町村がニホンザル対策の重要性について共通認識を持ち、より一層連携を密にして効果的な被害防止対策が実施され、被害が軽減されるよう期待する。ただし、ニホンザルの頭数増と群れの分裂、生息域の拡大と移動は今後も続くと思われることから、電気柵未設置区域への設置推進と維持管理の徹底、老朽化した電気柵の更新、各地域へ導入されたモンキードッグの市町村の枠を越えた広域連携による効率的かつ効果的運用と被害対策実施隊員の増員並びに農地・人家周辺環境の整備の推進、さらには捕獲わな以外にも直接捕殺の検討など、より強力で効果的な対策を進める必要があると考える